



# ★ ともに暮らし、 ともに地域をつくる “多文化共生”を考える

## 多文化共生って何？

多文化共生とは、国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくことです。（多文化共生の推進に関する研究会報告書 平成18年3月総務省より）

2018年12月に可決された「出入国管理及び難民認定法及び法務省設置法の一部を改正する法律（以下、改正入管法）」が2019年4月から施行されました。今回の改正入管法では、在留資格「特定技能」が新設されたことなどから、外国人材の受入れを増やし、不足している労働人口を補う効果が期待されます。

毛呂山町の人口が年々減少する一方、そのうちの外国人人口は徐々に増加し、2019年4月には過去最高の482人となりました。

今回の改正入管法により、町内の医療福祉関係施設に就労する外国人が増えることも想定されることから、本町の外国人登録人口についても増加することが予想されます。

さらに、外国人受入については、本人だけでなく配偶者や子どもなどもある場合もあることから、本人はもとより、その家族への生活支援や就学支援などの対応とそれに携わる人材の確保や育成が求められています。

外国人住民の支援をしている、したいと思っている方はぜひキーパーソンの登録をご検討ください！

### 埼玉県

### 多文化共生キーパーソン

知事から委嘱を受け、外国人住民と県や市町村などの橋わたしをする方々です。行政情報などを外国人住民に提供しながら、生活相談にも応じていただき、地域の多文化共生を推進します。

任期 委嘱日から翌年度の3月末日まで

### 主な活動内容

- ・ 県や市町村などの行政情報を外国人住民へ伝達する
- ・ 外国人住民に対し地域の生活ルールなどを伝達する



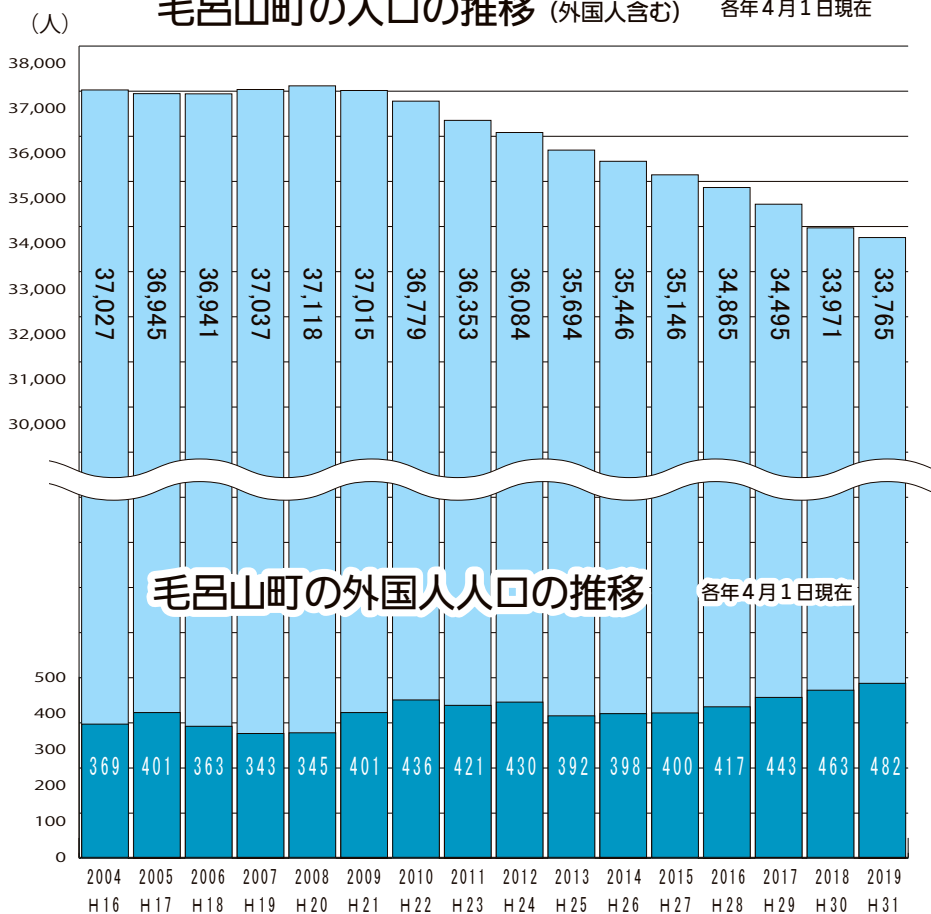
・ 地域の外国人住民からの生活相談に応じる



埼玉県国際課HP



## 毛呂山町の人口の推移 (外国人含む) 各年4月1日現在

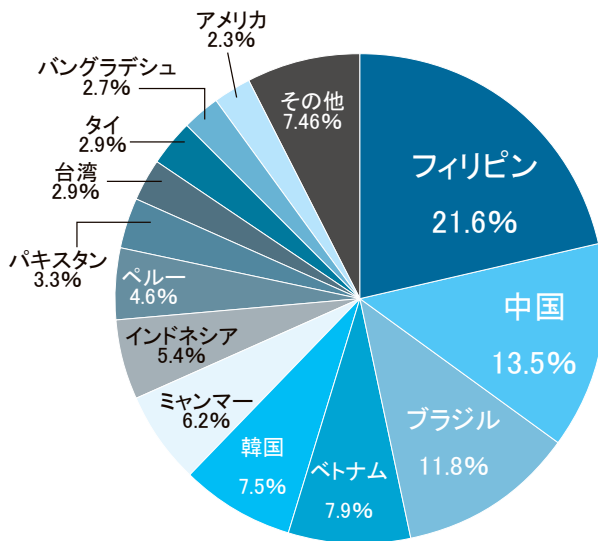


## 毛呂山町の国籍別外国人人数 (平成31年4月1日現在)

順位	国名	人数
1	フィリピン	104
2	中国	65
3	ブラジル	57
4	ベトナム	38
5	韓国	36
6	ミャンマー	30
7	インドネシア	26
8	ペルー	22
9	パキスタン	16
10	台湾	14
10	タイ	14
12	バングラデシュ	13
13	アメリカ	11
	その他	36
	総計	482

平成31年4月1日現在、外国人人口が482人と、過去最高になりました。

毛呂山町に住む外国籍の国の数は31か国と幅広く、フィリピンの方が最も多く、次いで中国、ブラジル、ベトナム、韓国となっています。14位以下は、スリランカ、インド、イランといった国が続きます。



キーパーソン登録を希望される方は、毛呂山町役場秘書広報課広報広聴係(内線332)までお申し出ください。  
氏名・所属・性別・年齢・国籍・対応可能言語・住所・連絡先を記載した名簿とともに、毛呂山町から埼玉県国際課に推薦させていただきます。

キーパーソン制度について詳しく知りたい方は下記までお問い合わせください。

〒埼玉県県民生活部国際課 ☎048(830)2714

・地域の外国人住民からの意見・要望などを県や市町村に伝達する  
・災害時における緊急情報の伝達および外国人住民の安否確認などで協力する  
※県からの依頼に応じて活動報告書を出す(年2回)

**キーパーソンはこんな方が多い**

- ・日頃国際交流に関わっている方(市町村国際交流協会、日本語教室)
- ・身近に外国人住民がいる方
- ・日本での暮らしが長い外国人

※相手のプライバシーに十分配慮できる方が望まれます。

令和元年5月現在、245人の方が埼玉県多文化共生キーパーソンに登録されています。(うち外国籍の方40人)

# 日本で学ぶ 日本を学ぶ



## 悠久園で働く4人の外国人技能実習生を訪ねました。

社会福祉法人育心会が運営する特別養護老人ホーム悠久園には、今年2月から4人の中国籍の女性が技能実習生として勤務しています。

この外国人技能実習制度は技能実習生が事業所で約3年、実習を通して技能の習得を行うものです。今年度、育心会ではこの外国人技能実習制度を事業計画の一つに加え、将来外国人を介護職員として採用していくことを視野におき、国際貢献の一助としてこの制度を導入することになりました。

この制度は国から承認を得た監理団体が中国等の実習生送り出し機関と受け入れる事業所に対してトータル的なマネージメントを行います。今回の監理団体である流通産業協同組合と育心会が契約し、技能実習生の受け入れが実現しました。実際に育心会職員3人が中国西安市に赴き、実習候補者11人の日本語能力と、実習に対する意欲を面接で見極め、張文静さん、謝夢月さん、張函さん、範玲玲さんの4人が正式に技能実習生として受入れが決定し、平成30年12月25日に来日しました。

4人は中国で日本語のトレーニングを積んできたとはいえ、会話となるとまだ片言程度。他の職員や利用者の方とより深くコミュニケーションをとるため、さらなる日本語習得が求められている彼女たちに、週3回悠久園内の部屋で多文化共生キーパーソンの小久保英夫さんによる日本語教室が開かれています。

悠久園の園長である小林祐次郎さんは、「日本の高い介護技術を学ぶために、技能実習生として来日する外国人が非常に増えてきているんです



「まだ若い彼女たちですが、仕事も日本語の勉強も本当によく頑張ってくれていますよ。」と話す小林園長。



↑日本語教室の一コマ。  
張さんが書いた作文を添削する小久保さん。



←仕事中の一コマ。  
利用者さんの口に食事を運ぶ範さん。



日本に来て感じたことや、  
驚いたことを教えてください！



空がきれい！

青い空、オレンジの夕焼け・・・

ゴミ箱が少ない

なのに道がきれい！

右ハンドル



みんな優しい

料理の品数が多い

サラダ、揚げ物、煮物など・・・  
※彼女たちは昼食・夕食は悠久園で  
とるとのこと

スーパーの果物が高い

スーパーで果物が一個単位で売って  
いる。※中国は量り売りが基本。

笑うとき  
口を押さえている



よ。彼女たちの場合は、最終的に中国に帰り、3年間日本で培った技術と知識を生かして仕事をしたいと考えています。中国は日本と違い、介護施設自体が少なく、自宅で介護をすることが多いというので、日本の衛生的で明るい施設で働くこと自体がとても刺激になるようです。中国も日本と同じく高齢化が進んでいるので、今後中国人をはじめ、日本で介護を学ぶ外国人は増えていきそうです。」と話します。

毛呂山町唯一の多文化共生キーパーソンであり、長年日本語教育に携わっている小久保英夫さんに、彼女たちのために日本語を教えてほしいと小林祐次郎さんがお願いしたところ、この週3回のレッスンは実現したとのことでした。

授業内容はこういったものか小久保さんに質問すると、「授業は手さぐりです。最初は簡単な会話から始めて、テキストの中に出てくる言葉を使った作文を書かせたり。中国は漢字を使うから書くことは簡単なようで、もっと難しいことを！と思い日本語独特の表現を教えたり。若い人が使う“くだけた”日本語って難しいんですよ。だからまずは、なるべく“やさしい”日本語を覚えてもらうようにしています。しかし、介護の専門用語のテキストなどは無いから、そういった専門用語をどう教えたらいいか悩みます。」と現状の課題も見えてきました。

日本で生活していて、孤独を感じることはないか彼女たちに質問すると、「寂しくない。微信(※メッセージアプリ)で毎日両親と話します。」とのこと。電車の乗り方や、買い物の仕方など、日本で生活する上で困ることはないか質問すると「わからないことはケータイで調べます。」

ケータイが大事です。」と現代っ子らしい答えが返ってきました。

休みが重なることがあれば、一緒に遊びに出かけたりすることもあるという彼女たち。来日しておよそ半年の彼女たちにとって、職場から一歩外に出てみれば、毎日新たな発見があるはずですよ。

技能実習生として日本で過ごす約3年の間で、さらに日本を知り、日本人との関わりに楽しさを見出し、介護技能以外のものもたくさん母国に持ち帰っていただきたいと思っています。



活動日時 毎週土曜日 午前9時～正午  
 活動場所 中央公民館 (岩井西1丁目15-1)  
 ボランティア会員数 10人 (令和元年6月1日現在)



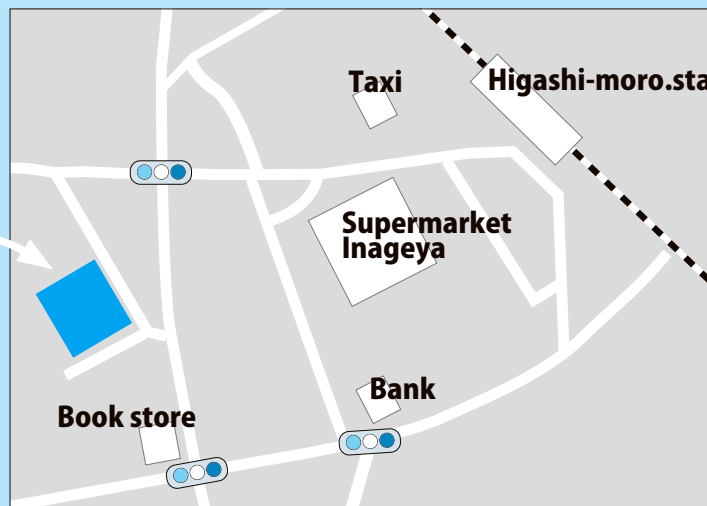
## もろやまインターナショナルクラブ

Let`s learn Japanese with us.

# Moroyama International Club

Activity date  
 Saturday 9am to noon

Activity place  
 中央公民館 Chuo Kominkan  
 (1-15-1 Iwainishi, MoroyamaTown)



『早く日本語を習得して働きたいんです!』といった、強い意志を感じる人には、こちらも一生懸命指へ



平塚明美さん

しかし、その日訪れる外国人によって多少雰囲気が変わってくるそうです。

『早く日本語を習得して働きたいんです!』といった、強い意志を感じる人には、こちらも一生懸命指へ

活動を続けています。

『日本語学習の支援』という硬い響きに聞こえますが、実際に活動をお邪魔させていただくと、学生が学校で出された宿題をボランティアの方に教わったり、トランプゲームで遊んだり、とても和やかなムード。

平成31年4月現在、毛呂山町では過去最高の482人の外国人が暮らしています。

今後さらに外国人人口が増えていくと想定されていますが、それと同時に、言葉や生活習慣の違いなどから、日常生活で困りごとが起きたり、コミュニケーションが上手くとれない事態が予想されます。

中央公民館で活動しているサークル「もろやまインターナショナルクラブ」は、日本語を学びたい外国人へ、日本語学習のお手伝いをすることで、日本での外国人の生活を支援しています。

公民館で開催された「日本語ボランティア養成講座」を受講したことがサークル発足のきっかけで、受講者が中心となり、平成8年に結成されました。以来、町で暮らしている外国人の少しでも助けになろうと、心の通った地道なボランティア活動を続けています。



# ともに暮らし、ともに地域をつくる

“多文化共生”を考える

ママ頑張れ！

パキスタン人のアニカちゃん・アティカちゃん姉妹。家族で来日して4年が経つ彼女たち。学校の宿題を教わっていました。家ではウルドゥー語で会話すること。



アティカちゃん (小6)



ボランティアの池田さんに教わりながら手続き書類の記入を進めるミャンマー・ロヒンギャ族のワヒダさん。今日は夫と3人の子どもを連れてサークルに訪れました。



アニカちゃん (中2)



りもじ

イラストが得意なアティカちゃんが描いてくれた「りもじ」

導にあたります。『土曜日の午前中だけじゃ足りない、もっと勉強したい』という人が過去にいて、違う日に指導したこともあり。けれど、そういう人は日本語学校に通うから、そういったケーヌは生まれですけれど。』とボランティアの平塚さんは名簿を見ながら過去を思い出します。

おしゃべりを楽しみつつ日本語も学ぶ、明確な目標を見据えて日本語を学ぶ・・・どちらが良い悪いではなく、その人にあったサークル活動を認めているそうです。

「今まで、国も年齢も性格もいろいろな人がこのサークルに入りに来てきました。『あの人が最近来ないな』と思っていると、ある日フラッと現れておしゃべりに来たり。『久しぶりです！』と結成当時からいるボランティアしか知らないような人が挨拶しに来たり(笑)」

様ざまな国の人と接することで、様ざまな価値観に触れ、ボランティアの自身も活動のたびに学びがあるそうです。

楽しくコミュニケーションを取りションを取れるようになってもらうのが活動の大前提とボランティアの皆さんは口を揃えて言います。もちろん『卒業』という制度はないため、いつ

しか活動場所を姿を見せなくなり、そのまま巣立っていく外国人も多いそうです。

「このサークルで学びたくても、仕事や家の都合で土曜日の午前中に来ることができない外国人もいるでしょう。それは私たちボランティアも同じ。今日は人が少ないけれど、日によっては10人近くの外国人が来てボランティアの手が足りないときもあります。」

4月に施行された改正入管法の影響による外国人会員の増加は今のところないそうですが、今後毛呂山町の外国人人口が増えますとみられている以上、ボランティア人員の確保と日本語支援の環境をさらに整えていくことが、多文化共生のまちづくりに必要不可欠といえそうです。

もろやまインターナショナルクラブ  
(愛称：MIRC)では、外国人の日本語学習をサポートするボランティアを随時募集しています。ご自由に見学にお越しください。

本会は、在日外国人と日本人が、お互いに地域に暮らす生活者の立場で学び合い、理解し合うことを目的とする。(会則第2条より)

問

鈴木初代 (今年度代表)

☎ 049 (292) 6621

小久保英夫

☎ 049 (294) 6391

